

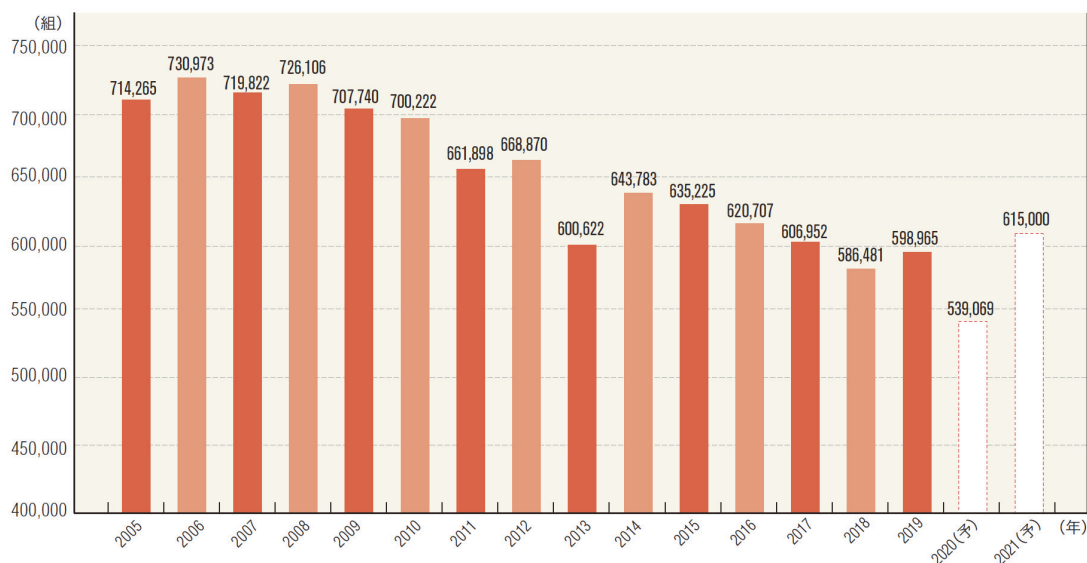
ブライダルジュエリー

ブライダルジュエリーの市場規模推移と予測

2020年6月5日に厚生労働省が発表した「人口動態統計」では、2019年の婚姻件数が前年比102.1%と7年ぶりの増加となった。実数では2018年の586,481組から2019年の598,965組へと12,484組増加している。これは、令和元年になった年を結婚記念にしたいと考える若者たちが、いわゆる「令和婚」をしたためである。

2020年の婚姻件数は、8月までの人口動態速報ベースで年間を推計すると、前年の90%程度となる見込み。結婚式の延期により婚姻届けを後ろ倒しにしているケースも多いため、2021年は後半に2020年～2021年前半の延期分がプラスされると考えられ、2021年の婚姻件数は大きく伸びると推計する。

【婚姻件数推移と予測】



2019年までは人口動態統計、2020年、2021年は株式会社矢野経済研究所 予測

日本に大きな災禍をもたらした東日本大震災の発生した翌年の2012年は、婚姻件数が5年ぶりに前年より約7,000件増加し、「絆(キズナ)婚」として話題となった。今回もコロナの自粛により、自宅で一人で過ごさざるを得ない時間が増えることで家族や友人との絆について改めて考えさせられることとなり、結婚についても真剣に考える人が増えている。2020年に相次いだ芸能人の結婚報告も、そうした傾向を後押ししているようだ。

2020年のブライダル市場規模は前年比94.5%の1,482億円、2021年は同116.4%の1,725億円になるものと予測した。

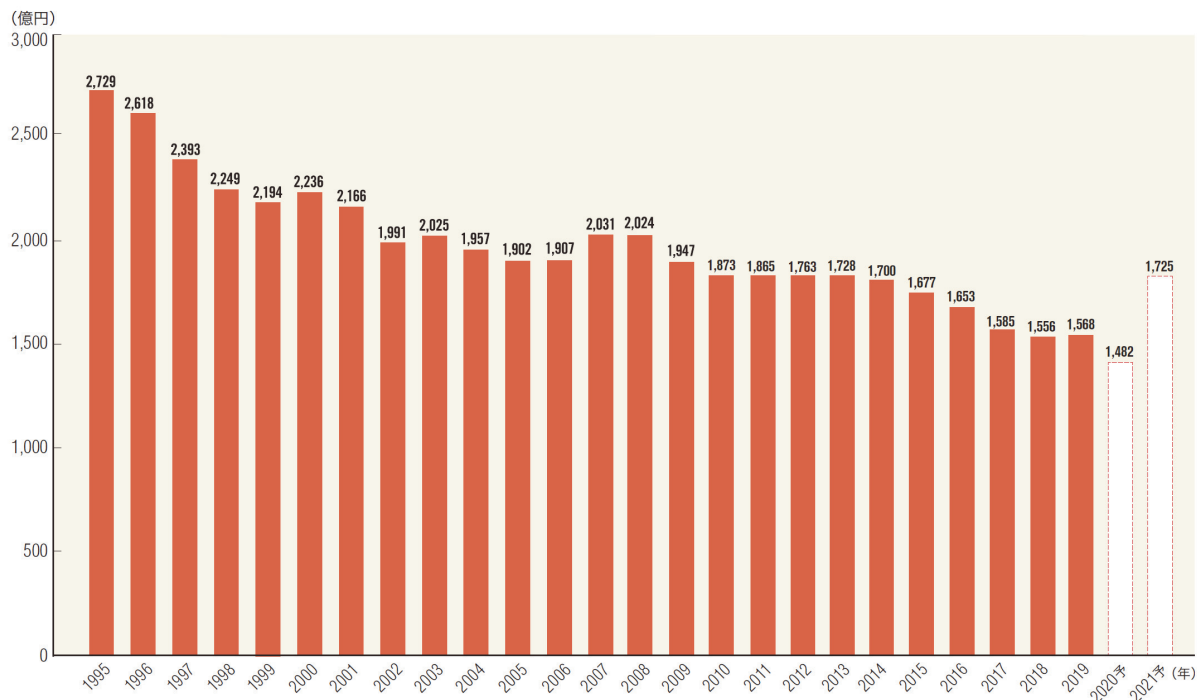
弊社調査によると、日本で展開しているブライダルブランドは200を超える。エンゲージリングのセンターダイヤの矮小化や、枠を細くするなどして、ここ数年は低価格のブライダルリングが増えている。また、国際ブランドもブライダル市場を狙って価格を下げ

てきているなど、ブランド間競争は激しさを増している。

ただし、2020年は、密を避けるため挙式・披露宴の中止や規模の縮小化が相次ぎ、また、ハネムーンも中止せざるを得なくなったことも重なり、そのための予算をジュエリーに回す傾向が見られている。2021年も、少なくとも前半まではその傾向が続くと見られ、ブライダルリングの単価UPが期待されている。

このように、2021年は反動で市場が拡大すると見られるが、その先は不透明である。結婚に対する意識が高まる一方で、所得減で結婚に踏み切れないカップルも確実に増加するだろう。また、婚活パーティーや街コン、職場の飲み会などイベントの自粛により出会いが減っており、婚姻組数の減少や非婚率の増加に歯止めがかからない可能性も高い。一方で、コロナ災禍により離婚が増えているが、離婚は再婚数の増加を促すためブライダルジュエリー市場を押し上げる可能性がある。近年の婚姻件数の中でも再婚が占める割合は年々増加している。以前にジャパンプレシヤスで行ったアンケート調査によると、再婚者のブライダルジュエリーは、初婚時より単価が高くなる傾向が出ている。また、LGBTsにも開かれたブライダルリングが普及しているなど、婚姻組数に現れない一定の市場を形成する可能性も考えられる。

【ブライダルジュエリー市場の推移】



株式会社矢野経済研究所 推計